

# 「農業は感動産業です！」

## その2



蘭越町 農業

### 及川 かをり

お金では買う事のできない何かを求めて蘭越町にやってきたわたしたちです。

が、近頃、たいていの物やたいていの事は、お金がないと自由にならないらしいという事にうすうす気がつき始めました。同時に、すべてがお金で自由にならないという事も。

新規就農ですが、わが家は新築ではなく、当時は最新形であったらう築四〇年の借家です。さらに納屋は、これほどにかしがついていても羊蹄の豪雪に耐え続け、先人の建築技術の偉大さに感服する…、というほどの建物です。この偉大な建築技術士は、二件隣の脇山のじいちゃんです。農家だけど大工、大工だけど農家です。

さらに、うちの農具の大半

はお下がりや廃物利用です。

働き頭の手押し耕転機は、大家のモウじいちゃんから譲り受けた昭和三〇年代のものが四七年間、この地を耕し続けているすぐれものです。機械いじりなど縁のなかつたハジメさんですが、エンジンモーター丸出しのこの機械（耕転機）を譲り受け、そのわかり易い仕組みとナイスな知恵と工夫に興味深々です。自分で直せる所は、先輩に手習いして使用しています。

骨董品の納屋の梁をながめながら、自分も一軒建ててみたいものだと思ひ憧れている様子です。

農家って畑仕事以外にも、電気工事や土木工事、ポンプやトラクターの整備、機械の修理、なんでも自分たちでこ



## 及川 かをり (おいかわ かをり) さん

札幌市生まれ

1998年より蘭越町富岡在住

夫 肇 41歳

長女 知香 中1

長男 洸一郎 小6

次女 智世 小1

2.2haの農地で約30種類の野菜栽培

なしているのです。

文化的な暮らしが、人間にとって便利であるという事は、それは素晴らしいと思う反面、

ボタン一つで洗濯から乾燥まで出来てしまう事や、米を研ぐという言葉さえが今の子ども達には必要がなくなってしまうような事が、なんだか不安です。

テレビのチャンネルひとつとっても、我世代の人間はついつい「チャンネル回して！」と、言ってしまう、子ども達から「何言ってるのかワケわかんない。」とつっこまれてしまいます。リモコンを紛失した日には、たいして広くもない我が家の居間のテレビの所まで、チャンネルを替えに行く動作さえ億劫

となってしまった人間。いったいどこまで便利商品に侵されていってしまうのでしょうか。

畑をつくるという文化は時代を経て、機械化され、大規模化し、すでに昔ながらのという方式は商品的な価値すらもつような時代です。消費者の嗜好や流通業者のニーズに合わせて、いつでもたやすく作れるような研究が進む今日ですが、新聞や雑誌などでそんな話題を目にするたびに、農業なのに工業化されてるなあと感じています。

作る人にも、消費する人にも、便利化されているということは、これも文明の進化なのかなあ。

わたしたちにとっての良き

アドバイザーの一人、菜っ葉じいちゃんこと岡村藤雄じいちゃん（八二歳）に昔話をしてもらいながら、当時の農家の人々の苦勞を思います。

なんにもしらないところからはじめた新米農家のわたしからは、装備もままならないからこそ、旧式農業を第一歩と考えています。

札幌から来た、おかしな家

族は、何から何まで初心者なので、専門用語もよく知りません。

田畑の大きさは、畝（せ）・反（たん）・町歩（ちようぶ）であらわします。

一畝 三〇坪 約一<sup>㍗</sup>

一〇m×一〇m

一反 三〇〇坪 約一〇<sup>㍗</sup>

一〇m×一〇〇m

一町歩 三〇〇〇坪 約一〇



ミッキーマウスのかたちのジャガイモを植えよう

〇<sup>㍗</sup> 一〇〇m×一〇〇m  
初年度の作付の計画は、今おもうとたいへんに無謀なもので、面積あたりの平均収量を目安に、希望収入額から算出してしまいました。ジャガイモは一反もあれば充分と。

春一番に、そうとう張りきって鍬（くわ）を振り、ジャガイモの作付を開始するわたしたちの様子を見たご近所の先輩達が、以前使用していた畝きりを貸してくれました。馬にひかせて使っていたものだそうですが、ハジメさんが腰にロープをつないで引つ張りました。見かねた先輩は、あわててトラクターを出動させてくれました。

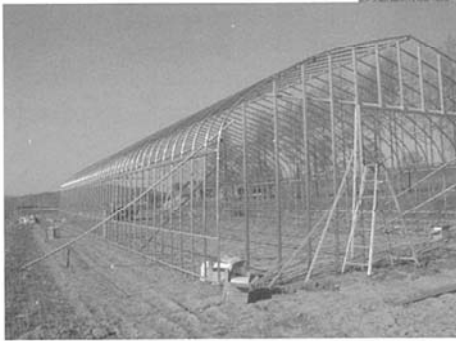
三〇m おきにジャガイモを置いていくのも、たいへん

な作業でした。土かけは足でしました。

二日目の作業開始時には、足をひきずって、どうにかこうにかイモ植え終了。

一町にしなくて良かったとつくづく思いました。

一月後、キリカケってなんだろう？ ジャガイモの株に土を盛って雑草をおさえ、イモが陽にあつたつて青くならないようにする作業のことでした。わたしたちは再び鍬を振りました。二畝も終わらぬうちに、柔な手は無残に豆がつぶれました。腰もギクギクです。へなへなと作業をしていると、そこへまたまた救世主があらわれ、管理機という機械があるので使ってみなさいと指導してくれました。鍬に比べると、数段らくちんで、



建築工事もします



近代化されたイモ植え

そのうえ土もたっぷり盛れるので大感動しました。

農耕馬体験をしたハジメさんは、速攻ジャガイモ植え機を中古で購入。トラクター組合に入り、初心者マークのノロノロ運転ですが、こうして及川農園ジャガイモの手植え時代は終わりました。

キリカケもトラクターに装着する培土機を中古で購入し、出番を待っています。

機械化がどんどん取り入れられるのも、なるほどよく理解できました。

昔の農民はスゴイと思います。

“オレらは農家しかやれねえからよ。”と先輩たちはおっしゃいますが、農家ってスゴイと心から尊敬しております。

さて、このペースで機械化が進むと、いずれ農作業が全自動化する時代がきてしまうかもなんて考えてしまいます。それでも、まだまだお天気相手の手作業中心の及川農園、春からの農作業でそろそろ筋肉痛・腰痛に苦しみだしたこのごろ、ハジメさんがつぶやきます。

“全自動化農業でも昔ながらのトマトを作れる機械だったら、否定はしないな。けど、うちは金がないから買えないべな。”

農業という職業が全自動化になってしまったとき、せめて筋肉痛と腰痛とかつて農耕馬の体験をしたという昔話ができることは、わたしたちの宝と言えるのでしょうか。そして畑で筋力を鍛える日々



普及所の斯波せんせい



はつづくのでした。

農作業で疲れたなあと感じたら、即釣り、即昼寝、即温泉、釣場も温泉もある蘭越町です。余裕がほしいものです。が、今のところは人間の疲労は二の次、三の次というところで、おかげさまで、農作業でどんなに疲れても至って健康なのです。カエルの合唱を聞きながらの眠りもわるくないです。

札幌にいた頃には風邪をひいたら、すぐそこへ選べるほどの病院が建ち並んでいました。

サラリーマン時代のハジメさんは、すぐそのススキノで残業あとの暴飲暴食で即胃腸薬にお世話になる生活であ

りました。が、小さな町の病院はおじいちゃんおばあちゃんのためのコミュニティであります。暴飲暴食をするようなネオンもありません。ということ、風邪をひいたり、お腹をこわさないように、毎日ノビノビと健やかに、ストレスのない豊かな生活を心がけるということですよ。病気になるにくい身体をじっくりつくって、作り手も野菜も健康であることが大切なのです。ほったらかしで、それでいて健康というのも難しい問題ですが、おばあちゃんの知恵みたいな健康法もあるし、毎日の食生活は身体にも心にも大きく関わるなよりの健康法であると思います。あれこれと工夫して、新鮮な野菜を食べて、なるたけ薬に頼ら



脇山のおじさんとおばさん

ずに笑顔でいたいものです。

あれこれ工夫してというところで、農家の暮らしをはじめと感じている事は、不便だ何をするにも頭を良く使う（使わなくてはならない）という事です。

不便な分は、知恵で補います。そんな生活を楽しんでいるのですから、不便なことが不幸だということはありません。

大家さんがしきりにマキにすれ、マキくべれ、と薦めてくれたのですが、及川一家のストーブは石油ポット式です。薪割がつらそうだったので。長時間の停電の経験はありませんか？当然ですが電話もストーブもテレビも使えません。富岡の冬は停電がよくありま

す。ポット式石油ストーブは消えます。さむい。

マンションでは灯油切れなランてこともありませんでした。蘭越町の及川家では何故か農協が閉まる夕方六時すぎに灯油切れが発生します。

吐く息が白く肉眼で見えるくらいに寒い家の中というのはつらいものです。

毛布をかぶり、子供らは、料理をするとガスコンロにあたりに来る始末。幸運にも停電していてもガスは使えます。さむいのでみそ汁がとってもありがたいのです。

ストーブを付けたらさむさストブ！なんていうダジャレもさむいからやめてくれと却下されてしまいました。辺りは真っ暗。だけど、大家さん宅ではマキがパチパチ暖か

く燃えているんだろうなあ。火の力は偉大だと思います。

ストーブがついて暖かくなる、グツと家族の雰囲気がよくまりましたが、ストーブにへばりついている子供達に、おしりが焼けてもしりません！母ハハ八と言ったところやはり却下されました。

農作業の事や大家族の食事でんてこ舞の毎日を、のんびりゆったり生活するために、農家の母は知恵をはたらかせ、それと冬の夕方六時前には灯油切れに気を配るのです。

たぶんもたもた作業をしているから、のんびりやっているようにみえるのかなあ。

そんな手際のわるい私達は、傍目から見るとのんびりやっているようにみえるらしいのです。結構必死なんだけれど。